

『ありがとう』いつもそばにいる人へ

第14回「益城町人権フェスティバル」が、「益城町から人権の熱と光を」のテーマのもと、去る1月29日(土)、町文化会館で開催されました。

展示コーナーには、町内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、公民館講座の受講生や平田識字学級の皆さんによる、人権標語、習字、絵画などの作品が所狭しと展示されました。年齢や学年にかかわらず、人権に対する思いを込めた作品に、多くの人たちが見入っていました。



人権に対する思いを込めたステージ発表

開会行事では住永町長から「日本一住みやすい町づくりのために、町民の皆さんがお互い助け合い、尊重し合い、心を開き合うこと、そして喜びを分かち合うということを大切にしましょう」とのあいさつがありました。

つづいて、この日のために練習を重ねてきた各学校の発表がありました。

袴野小中は、地域の人たちへの感謝の気持ちや、大好きなふるさとを守り、盛り上げていこうという気持ちを劇にして堂々と発表しました。

益城中央小は、水俣病の苦しさや周囲からの差別にも負けず、明るく立ち向かっていく人々の強さと勇気を構成詩で発表し、木山中からは沖縄への修学旅行で学んだ平和への思いや命の尊さを「ガマ」沖縄にある鍾乳洞・自然の横穴洞穴・戦時中避難壕となったという演劇や沖縄伝統のエイサー踊りで訴えました。

「クラスミーティング」で話し合い、お互いのことをわかり合えた様子を絵本「あの子」の群読で表現したのは、益城中でした。

津森小は、一人の力は小さくてもみんなで力を合わせることで大きな力になるということ、大好きなスイミーの構成劇で発表しました。

飯野小は、「いいのっ子総会」の取り組みから、人権学習で学んだこと、勇気を出して伝えることの大切さ、を劇

で発表しました。

広安西小の人権委員会は、本年度スタートし、自分たちができることを一生懸命考え、力を合わせて頑張ってきたことについて、発表しました。

最後は広安小の発表でした。平和な世界を築き、いじめや差別をなくすために何ができるか、81人の児童一人一人の思いが込められていました。

どの児童・生徒も真剣な表情で、堂々とした発表や演技でした。客席では涙を拭く観客の姿もありました。

また、平田舞踊教室の皆さんの踊りが披露され、家族を思う心の強さや踊りの華やかさが伝わってきました。日ごろの皆さんの楽しい活動の様子やつながりの深さがうかがわれました。

人権擁護委員会の皆さんからは、人権についての啓発や人権相談、心配ごと相談などの活動の様子について紹介がありました。

参加された皆さんの感想を一部ご紹介しします

◇子どもたちの声がはつきりしていて、気持ちがよく伝わりました。一生懸命な発表の姿に感動しました。子どもたちはいろいろな面に気づき、自分の考えをきちんと持っているんだということをしつかりと受け止めた

◇昨年感動したので、今年は最初から

見ました。

児童・生徒の素晴らしい発表に、益城の未来は明るいと思

◇この取り組みの継続が町づくりにつながるのではないだろうか。自分たち一人一人にできることは何かを考えさせてくれるフェスティバルでした。

◇町の広報誌で知って来ました。毎年素晴らしいテーマで、一生懸命子どもたちが発表していますね。今回も涙がこみ上げてきました。もっと多くの人が見に来てくれたらいいのになあと思いました。

「益城町人権フェスティバル」は、「人権が尊重され安心して暮らせる、差別のない社会づくり」を目指して、毎年開かれています。今年のサブテーマは『ありがとう』いつもそばにいる人へ」でした。

子どもたちだけでなく、私たちおとなも人権の大切さについて考え、毎日の身近なところから一人一人を大切にしたい行動を起こしていきたいものです。



絵画・習字・標語などが並ぶ展示コーナー